

「歴史総合」

A 「歴史の扉」

A-2 「歴史の特質と資料」

または

B 「近代化とわたしたち」

つぎの文章は、1822（文政5）年に日本で流行したコレラに関する資料である。すべて富士川游『日本疾病史』（平凡社東洋文庫）に引用されている。なお、資料は読みやすくするため、適宜手を加えてある。

①多紀元堅『時還読我書』（1838年）

文政5年の秋の末、浪華に三日コロリと称する病流行した。初めは九州より起こり、中国地方に至り（安芸国などもっとも甚だしい）浪華に及ぼし、京にも病んだ人がいる。最初に悪寒が出て、続いて嘔吐が甚だしく、胸を悪くする。急な場合のその日のうちに亡くなり、緩くても3日ばかりで亡くなるので、三日コロリと名付けられた。

②大槻磐水「天行厲氣揮霍撩乱病雑記」（1822?）

文政5年10月初旬のことだったか、長州の医生岡田宗伯が来て面会した。彼が言うには、「我が故郷の萩では、8月末より流行病があって、症状は吐瀉があり、心臓や腸が絞められるように痛くなる。2、3日で死ぬ。この病に感染して死ぬ者が近日に至っては3千人に及ぶ」と言う。これより2、3日が過ぎて人の話を聴くと、浪華においてこの病が流行していて、死者が多いそうだ。大阪の医生斎藤方策より10月19日付けの書簡が届いた。これによると大阪より中国地方に向けて病が流行している。死者が多いとのことだ。また、斎藤方策が仙台の佐々木中沢に9月26日に出した書簡によると「この病は朝鮮より発している。対馬の人が感染して帰り、津島は大いに流行した。その後、長州の下関で死者が多数出た。大阪まで伝わった。中国地方でも安芸国の広島、長州の萩は大流行で死者は数知れない。」とのことだ。6月の入港船の報告書によると、ジャカルタでは昨年の夏以来病が流行して、多くの人が亡くなっているそうだ。今、大阪で流行している病は彼の地から来たのである。

③岩永蘆齊『医事雑話』（執筆年不詳。ただし著者は1866年死去。）

讃岐国高松に滞留し、帰路の10月9日に播磨国赤穂に着船し、赤穂城下の阿賀屋に至る。市中を往来すると、建物ごとに門松を植え、しめ縄を引き回している。年始と同じであった。私が理由を問うと、主が言うには、「大阪に三日コロリという悪病が流行して、死者は数知れない。殿様が年を変えるように仰せられ、正月年始のようにした。明日の朝は雑煮をお祝いに出す。この地に長く滞留して大阪に立ち寄ることなく京都に戻るべきです。」と懇切に言われたので、11月下旬まで滞留して、無事に京都に戻った。京都では大阪ほどは流行しなかった。

④殿経「天行三日病記」（執筆年不詳）

文政5年の秋冬、奇病が流行したとのことだ。この病は朝鮮国で発生して我が国に伝わり、西国の中国地方で盛んになり、摂津・河内・和泉の三国でもっとも多かった。幾ばくもなく伊勢や桑名に来た。

⑤中川修亭より桂川甫賢に送られた書簡（1823年）

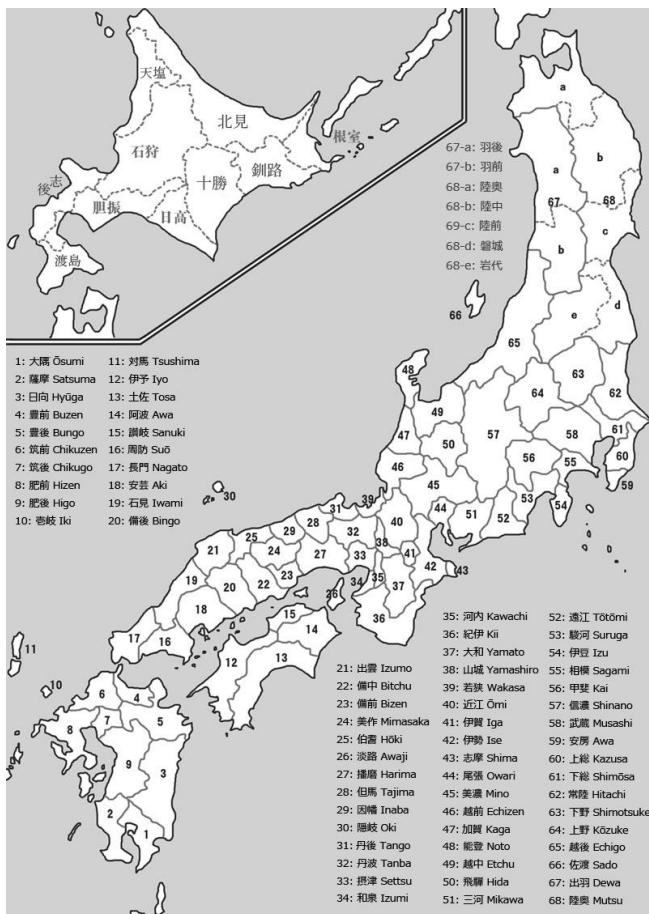
この間、駿河国沼津あたりの医生より書状が参り、去冬（文政5年）に暴瀉病の患者3名を治療したとのことだ。大阪で流行した病気と違いはないとのことだ。

⑥桂川甫賢『酷烈辣考』（執筆年不詳。著者は1844年死去）

文政5年2月、オランダ人が入貢した。私はいつものようにその使者に旅館で会った。酋長のブロムホフが言うには、「ジャワ島のバタビヤの地で、船を日本に向けて発したときに一種の流行病があった。オランダ本国より働きに来たヨーロッパ人および土地の人で死亡する者が多数いた。」とのことだった。これはいわゆるコレラモノプスだろう。浪速の地に一種の流行病があるが、最初は朝鮮から対馬に渡り、ついに長門国や周防国にいたり、すぐに近畿のあたりに被害を与えた。死亡する者が甚だ多いとのことだ。この病気はジャワ島の辺りに起こり、ついに我が国に来たものである。

1. 6つの資料が述べていることをまとめてみよう。

2. 感染がどこで広がっているのかを白地図に記入してみよう。

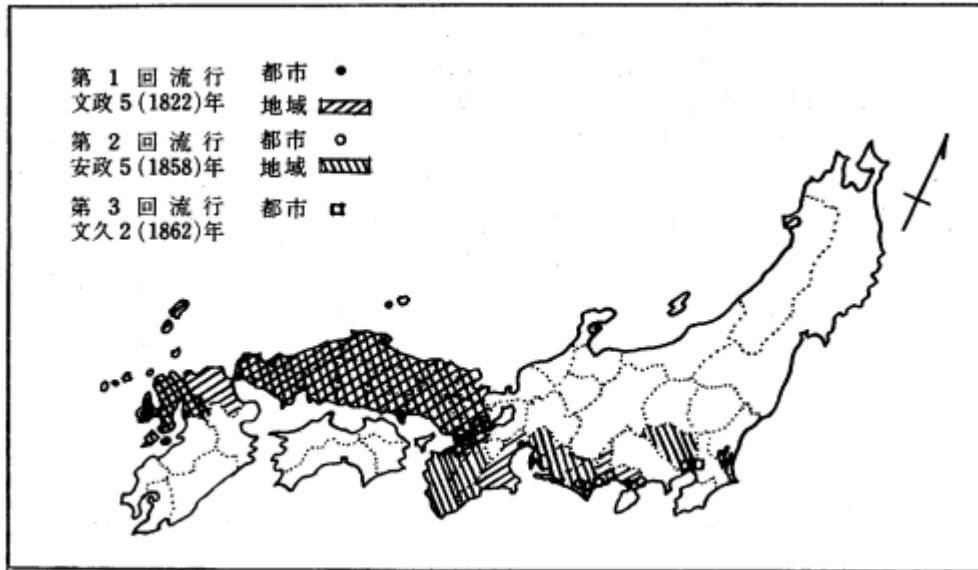


Wikipediaより

→旧国名が掲載されていれば、どのような地図でも良いと思います。

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ancient_Japan_provinces_map_japanese.gif

【参考地図】



江戸時代の文献にあらわれたコレラ流行地域

堀口友一「日本近世における疾病の歴史地理学的研究」

『茨城大学教育学部紀要』21号、1972年、73頁

3. 感染ルートを推測してみよう。

【参考地図】五街道・海路地図

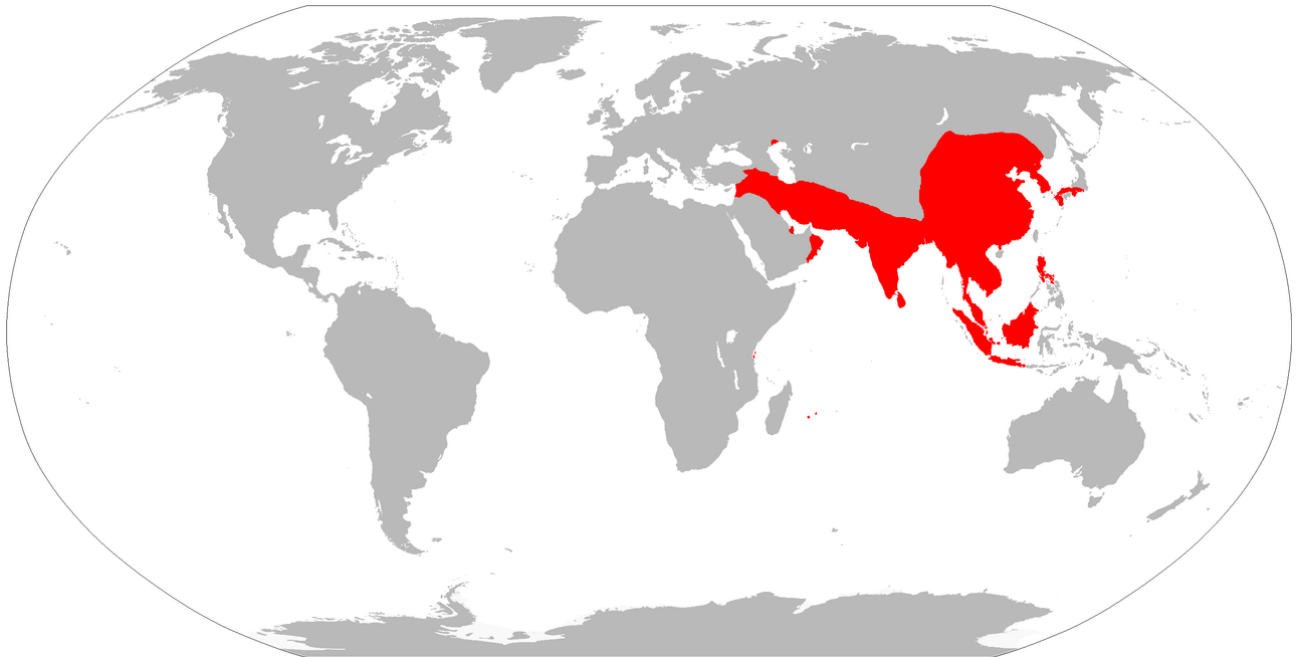


五街道・海路地図

出典：安藤達朗『いっきに学び直す日本史 古代・中世・近世:教養編』

東洋経済新報社、2016年

4. 日本に伝わったことに関して、朝鮮半島由来説とジャワ島由来説とがある。両説をディベートで討論してみよう。



出典 : Distribution of cholera during the first cholera pandemic (https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/9/9b/First_cholera_pandemic.PNG)

5. 資料を見ると、西は九州、現在の山口県や広島県、大阪府で流行しているようである。東は静岡県の沼津あたりまでひろがっているようである。つぎの流行はペリー艦隊がもたらしたもので、江戸でも大流行している。では、1822年段階で江戸までコレラの流行が拡大しなかった理由を考えてみよう。

【参考】

- ・三日コロリの名前通りすぐに死に至り、感染が地域的に広がりにくい？
→コレラの特性を調べてみよう。さらに他の感染症とも比較してみよう。
- ・船による広がり→船の中で感染が拡大し続けると遠くまで感染する
→第一次世界大戦中の日本の軍艦明石と矢矧の事例（スペイン風邪）も参考になる。
速水融「インフルエンザと軍隊」

『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』藤原書店、2006年、263～325頁

6. ここにかかげた6つの資料の他にどのような資料があれば考察の助けになるか？

【参考】

- ・朝鮮半島やジャワ島での感染の広がり
- ・船舶が航行にかかる日数
→朝鮮から対馬、対馬から下関、瀬戸内海の航路